

東海北陸

Branch Report Vol.58

TOUKAI-HOKURIKU

2013. February



丸岡城



公益社団法人
日本建築積算協会・東海北陸支部

THE BUILDING SURVEYORS INSTITUTE OF JAPAN from Toukai-hokuriku Branch
<http://bsi-th.052e.com/>

| | | | |
|----------------------------|--------------|--------------------|-------|
| 支部長あいさつ | 新年のご挨拶 | 支部長 小野 徹郎 | 1 |
| 平成 25 年度支部通常総会及び懇親会開催のお知らせ | | | 2 |
| 平成 25 年度 | 新年互礼会 | 総務財務委員長 川辺 清次 | 3 |
| 資格制度委員会報告 | 資格制度委員会 | 委員長 碓谷 智彦 | 4・5 |
| 総務財務委員会だより | 総務財務委員会 | 委員長 川辺 清次 | 6 |
| 会員委員会だより | 会員委員会 | 委員長 佐野 洋治 | 6 |
| 設計審査委員会だより | 設計審査委員会 | 委員長 西田 彰 | 7 |
| ホームページ委員会だより | ホームページ委員会 | 委員長 碓谷 将紀 | 7 |
| 平成 24 年度の講習会 | 学校教育の実態 | 講習・教育委員会 委員長 藤井 正王 | 8 |
| データベース委員会だより | データベース委員会 | 委員長 植田 隆明 | 9 |
| 北陸部会だより | (有)高島建築積算事務所 | 高島 義昭 | 9 |
| 『ここが知りたい積算勉強会』 | 講習・教育委員会 | 副委員長 山田 治 | 10・11 |
| CPD 制度改定と CPD 単位取得について | 東海北陸支部 | 副支部長 佐野 洋治 | 12 |
| 高千穂 紀行 (3) | 顧問 杉浦 譲治 | | 13 |
| 資格者地位向上のために (会員交流会) | 会員委員会 | 委員長 佐野 洋治 | 14 |
| 静岡会員交流会 | (株)アイピーエス | 吉開 慎也 | 15 |
| 平成 24 年度年末会員交流会 | 広報委員会 | | 16 |
| 追 悼 | (株)碓谷建築積算事務所 | 碓谷 智彦 | 17 |
| トルコ旅行 | (有)高島建築積算事務所 | 高島 義昭 | 18~20 |
| ナゴヤドームへ野球観戦にいこう | 会員委員会 | 委員長 佐野 洋治 | 21 |
| インターンシップを終えて | 富山県立富山工業高等学校 | | 22 |
| 原稿募集のお願い | 広報委員会 | | 23 |
| 2013 年 謹賀新年 | 積算事務所からの御挨拶 | | 24~26 |
| | 株式会社 大成出版社 | | 27 |
| | 山田印刷所 | | 28 |
| 編集後記 | | | 29 |
| | 協栄産業株式会社 | | 30 |



新年のご挨拶

公益社団法人
日本建築積算協会
東海・北陸支部
支部長 小野 徹郎

(名古屋工業大学名誉教授、椋山女学園大学教授)

明けましておめでとうございます。会員の皆様は、厳しい経済状況の中それぞれのお立場で頑張っておられることと思います。今年も宜しくお願いいたします。

日本建築積算協会は大きな節目となる公益社団法人としての新しい船出をいたしました。昨年9月に認可され、昨年秋の臨時総会を経て正式に公益社団法人になりました。税法上の優遇措置が認められてはいますが、主たる目的とする公益目的事業の比率は50%以上であることなどが要求されます。すなわち、協会は仲間内の協会ではなく社会貢献としての公益活動をより一層求められています。会員一人一人がそうした役割を果たすことに誇りと意義を感じて活動する必要があります。また昨年末には衆議院総選挙が有り政権が民主党から再び自民党に移りました。デフレ脱却を標榜しているインフレ指向の経済運営は当面世の中では歓迎されるでしょうが、その先に待ち受ける状況に関して想像出来ているのでしょうか。いずれにしてもいい結果がもたらされることを期待したいものです。我々は我々の意思で変革を求めたのです。それには変革を求めた先の着陸地点を想像し、その結果に責任を持つ必要があります。

東日本大震災の被害と復興及び政治の混迷の中、二つの命題について考えることが多くなっています。第一に命であり、科学技術がもたらす豊かさとはなにかという命題です。命を考えるとときすぐ浮かぶのは平和の有り難さであり戦争の愚かしさです。今日本が置かれている様々な閉塞感の中、一見、元気で勢いのある発言や論調がもてはやされる傾向があります。年末の衆議院選挙の時、海外メディアは日本の右傾化を報じ、日本ではリベラルな考え方が消滅した

のかと思わせる傾向が有ると報じていました。日本はほとんど資源を持たない国です。日本は勤勉で優秀な国民と、長い年月の中で培ってきた世界をリードする科学技術を擁する貿易立国です。国際社会の中で孤立して生きていく方法が有るとは思えません。我々は右でもなく左でもない、あるバランスの中で道を模索するしかないと思います。そのバランスも勿論、軍事的バランスではないはずです。「善き戦争はなく、悪しき平和もない」とはベンジャミン・フランクリンの言葉です。また私が好きな作家の一人である城山三郎は太平洋戦争を経験した上で「戦争の真の勝者は戦わなかったものだ」と言っていました。国際社会の中で日本の取るべき道は自ずと見えてくるのではないのでしょうか。

現代社会は科学技術の進歩に伴って豊かさを享受してきました。新しい技術は我々の生活を便利に快適にしてくれました。しかし科学技術には安心（安全）とは裏腹に多くの不安（危険）をも含んでいます。技術が進歩し、新しい仕組みが社会に組み込まれてくると自ずとその技術が持っている危険性をも我々は抱えることになります。科学技術が持つ光と影です。光が強ければそれだけ影も濃いことを認識せねばなりません。この度の東日本大震災での原子力発電の被害を考えるにつけても、本当に我々はその影の濃さに気づかずにいたのでしょうか、想像出来ていなかったのでしょうか。我々はその危険性を当面の利便性と経済性との兼ね合いで目をつむってきたのではないのでしょうか。経済的な豊かさと引き換えに大切なものを見失ってきたことに気づく必要があると思います。日本は広島、長崎の経験の上に福島を経験してしまいました。その経験をどのように生かして本当の豊かさをどのように作っていくかを改めて考える必要があるのではないのでしょうか。

今年もこの厳しい状況の中で、積算業務を通して社会貢献の一翼を担っているのだと言う気概を持って、それぞれの会員が活動されることを期待します。

平成 25 年 1 月吉日

(社) 日本建築積算協会

東海北陸支部正会員 各位

(公社) 日本建築積算協会東海北陸支部

支 部 長 小 野 徹 郎

平成 25 年度支部通常総会及び懇親会開催のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は当支部事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

標記通常総会並びに懇親会を下記の通り開催予定でございますのでよろしくお願い申し上げます。
お忙しいとは存じますが、出来るだけ多くの会員皆様方にご出席頂きたく早々にご案内申し上げる次第です。

謹白

記

《通常総会》

1. 日 時： 平成 25 年 4 月 24 日 (水) 17 時より
2. 場 所： ベストウエスタンホテル名古屋
(<http://www.bwhotels.jp/nagoya/access.html/>)
名古屋市中区栄四丁目 6 番 1 号 TEL (052) 263-3411
地下鉄・東山線又は名城線「栄駅」下車 12 番出口 徒歩約 4 分
3. 議 案
第 1 号議案 平成 24 年度事業報告承認の件
第 2 号議案 平成 24 年度収支決算及び監査報告承認の件
第 3 号議案 平成 25、26 年度支部役員選任に関する件
4. 報告事項
1. 平成 25 年度事業計画の件
2. 平成 25 年度収支予算の件
3. 東海北陸支部規程の改訂に関する件

《懇親会》

1. 日 時： 平成 25 年 4 月 24 日 (水) 18 時より
2. と ころ： ベストウエスタンホテル名古屋
(<http://www.bwhotels.jp/nagoya/access.html/>)
名古屋市中区栄四丁目 6 番 1 号 TEL (052) 263-3411
地下鉄・東山線又は名城線「栄駅」下車 12 番出口 徒歩約 4 分
3. 会 費 6,000 円

平成 25 年度 新年互礼会

総務財務委員長 川辺 清次

毎年恒例の建築 8 団体による新年互礼会が、今年も 1 月 11 日（金）名古屋国際ホテルにて開催された。今年ホストが（社）愛知県建築士事務所協会で、総勢 270 名余の参加を得、賑々しく行われた。

まずは主催団体代表挨拶に始まり、来賓挨拶では、大村秀章県知事、入倉憲二名古屋副市長、国土交通省中部地方整備副局長 渡辺秀樹氏 と続いた。どれも政権が変わり景気が良くなる期待を込めた話が多かった。次に表彰者披露で黄綬褒章、国土交通大臣表彰の 2 名の紹介があり乾杯に移った。



アトラクションは 3 人のバンド、1 人のボーカルで、ジャズ、ポピュラー何でも可の音量のある女性シンガーであり、騒しい中でも充分聞きとれる程であった。



会場の様子

演奏が終わると恒例の抽選会で、3 年前積算協会がホストした時は一等賞を始め数名の人が当たり、ホストが細工でもしたかの様で風当たりが強かったが、今年も賛助会員である、末永製作所の末永社長、秀和工業の上竹社長が七等、六等が当り良かった。特に賛助会員さんが、当った事に意義があった。良かった。良かった。抽選が終われば毎年の事ながら退席する人が多く早々と閉会された。



抽選会

今年も例年位の 270 名程の参加を得たが、何せ来賓が多過ぎる。来賓 69 名に対して会員 120 名弱協賛会員が 90 名程、来賓の方々の負担を協賛企業が賄う感じがする。とにかく会員の出席者が少な過ぎる。3 年前積算協会がホストの時に各団体からの来賓リストから独断で 3 分の 1 程減らしたが後で聞いたら元々来てない人が多かった様です。まだまだ改善する余地はあると思いますので、今後共、いい方向に向えば良いかと思います。

資格制度委員会報告

資格制度委員会

委員長 碓谷 智彦

資格制度委員会活動の中で、「建築積算士」及び「建築コスト管理士」の試験と「建築積算士更新講習」の報告をします。

「建築コスト管理士」試験は、平成24年10月28日（日）に名古屋会場で5名、富山会場で11名の方が挑戦しました。

出題範囲は、「建築コスト管理士ガイドブック」第1章～第4章、「建築積算士ガイドブック」第6章～8章、及び第10章を対象とし、2時間30分の学科試験（問題数60問・4肢択一）、2時間の短文記述試験（問題数5問・200字以内で記述）と合計4時間30分の試験を終えました。

結果は、名古屋会場は5名全員合格、富山会場は11名受験で4名の合格者でした。

次に、「建築積算士」一次試験は、建築コスト管理士試験と同日に名古屋会場で15名、富山会場で2名の方が挑戦しました。

出題範囲は、「建築積算士ガイドブック」全章、「建築数量積算基準」「建築工事内訳書標準書式」を対象とし、3時間の学科試験（問題数50問・4肢択一）を終え、合格者は、名古屋会場7名、富山会場1名の方が二次試験に挑戦する事となりました。

「建築積算士」二次試験は、平成25年1月27日（日）に実施される予定です。

二次試験は、一次試験合格者及び一次試験免除対象者63名の方が挑戦します。

出題範囲は、「建築積算士ガイドブック」第1章～4章、第9章～15章を対象とし、10時から12時まで2時間の実技試験（1.2）、13時から1時間の短文記述試験（問題数2問・200字以内で記述）と、14時30分から17時まで実技試験（3.4）と計5時間30分の試験が実施されます。

「建築積算士更新講習」は、名古屋・静岡・金沢の3会場で開催致しました。

各会場とも、13時からの支部長挨拶に続き

総論 第1章 建築積算士について

第2章 建築積算とは

第3章 建設産業について

第1編 建築積算士としての基礎的知識

第1章 LCC（ライフサイクルコスト）

第2章 VE（バリューエンジニアリング）

第3章 環境配慮とコスト

第2編 コスト管理に関する応用知識

第1章 仮設と経費

第2章 工程計画とコスト

第3章 解体工事

第4章 改修工事とコスト管理

第5章 設備改修工事とコスト管理

第6章 集合住宅の維持保全とコスト管理

第7章 法規とコスト

第8章 コスト管理業務に関わる法的責任

以上の内容で4時間弱の講義を受講し出席者全員が「建築積算士」資格更新をしました。



名古屋会場の受講者



伊藤講師

金沢会場は、平成 24 年 11 月 3 日（土）に近江町交流プラザにおいて、39 名の受講者で始まりました。

総論・第 1 編を伊藤健蔵講師 第 2 編・塚田律夫講師で行ないました。毎年のことですが北陸部会の委員の皆様大変お世話になりました。

次に名古屋会場が、平成 24 年 11 月 17 日（土）に中電ホールにおいて、217 名の受講者に始まり、総論・第 1 編を伊藤健蔵講師 第 2 編・山田治講師の講義を受講者皆様真剣に聞き入っていた印象を持ちました。



金沢会場の受講者

名古屋会場を受講された方々には、直前で会場が変更になり、大変ご迷惑をお掛けしました事をお詫び申し上げます。

静岡会場は、平成 24 年 12 月 1 日（土）に静岡商工会議所会館において、50 名の受講者で始まりました。

総論・第 1 編・藤曲充信講師 第 2 編・山田治講師の講義で予定通り終了しました。



山田講師



静岡会場の受講者

今年度の更新講習は、三会場合わせて 306 名の受講者と、eラーニングでの受講者 177 名の合計 483 名が更新しました。

更新対象者に対し、受講率は 56% と他支部に比べ少し低い結果となっています。

来年度は受講者数が少ないため、会場数が減り名古屋のみでの開催になるかも知れませんが、来年度更新で遠方の方には eラーニングでの受講をお勧め致します。

以上のように、今年度の更新講習は無事に終わることが出来ました。受講日が土曜日という日程のなか、休日返上でお手伝い頂きました役員の皆様に誌面を借りてお礼申し上げます。

総務財務委員会だより

総務財務委員会

委員長 川辺 清次

今年度の総務財務委員会は、昨年9月3日に公益社団法人になり、初めての総会を迎える。公益になる為の条件であったそれぞれの事業の50%以上は公益性がある事、又、利益を出さない事等、遵守しながらの活動となる。と言いながら元来今迄の活動が全て該当し、利益も出していない事なので“今迄と活動としては変わらない..”とあっていただいて結構だと思います。

それよりも再び訪れ様としている“財政危機をどう乗り越えるか..”が重要である。今年度から各支部への交付金が一律カットされ、会費に頼る運営から脱却し、半額にした会費収入、更新講習代も含むとして会員のメリットを大にして会員増強を計ったが、思ったより増えず、むしろ高齢化した会員が退職、リタイヤした事によって退会者の増加の歯止めが効かなかった。

どこかでこの大盤振舞いの“ツケ..”が、ポデーブローの様に効かないうちに対応しなければならぬ。又、公益法人になる為には、含み資産を減らす目的でもあった建築コスト管理士、建築積算士のガイドブックも本部に山積みされているのを見るたびに“なんとかしなきゃ..”“勿体ない..”と思う。ではどうしたら良いか、会員増強である。

まずは議論よりも、マニュアルだとかやたら書類を多くするよりも“まずは行動..”である。

現状では、やたら書類作製に時間がかかり、準備を完璧にするのも大事だが、まず人に会って何度も頼み込む事の方が重要である。

今年は特に本部役員にとっては勿論、支部役員にとっても真価が問われる年になりそうである。

会員委員会だより

会員委員会

委員長 佐野 洋治

平成24年9月3日、当協会は『公益社団法人』としてあらたにスタートしました。

そこで、建築積算士の歴史を振り返ってみたいと思います。

1975年、社団法人日本建築積算協会の法人化

1979年、建築積算士制度を施行

1990年、建設大臣認定 建築積算資格者発足

2001年、大臣認定が外れ、民間資格に

2009年、建築積算士への名称変更

このように、資格認定開始より33年間は、建築積算士(11年)・建築積算資格者(19年)・建築積算士(3年)の名称変遷となっております。

また、協会の活動は、公益社団になったことにより、社会への貢献が認められたことでもあります。

このような歴史を持ち、一時は公的資格でもあった積算士を、会員として誇りを持ってください。

また、会員構成の特性をいかした会員交流会は、懇親会、現場見学会、勉強会などさまざまですが、会員のコミュニケーションを図り、お互いに知り合い、日常の生活や仕事にいかすことが目的となっています。

日頃の苦勞から開放される息抜きの場として参加し、何もむずかしいことはなく気軽に楽しめることも協会の良さです。

● 会員のメリット

1. 精神的な満足感、安定感
2. 新知識、最新情報等の入手
3. 人脈の形成
4. ボランティア活動への参画
5. 講習会等の無償または低価格な受講
6. 会誌の配布
7. 会員交流会、勉強会、現場見学会等の参加
8. 会員としての権利行使
9. その他、本人次第でいろいろある

継続して、会員拡大活動を実施していきます。皆様も、協会入会のお誘いをしてください。

設計審査委員会だより

設計審査委員会

委員長 西田 彰

平成 24 年度は既に 2 件の審査を済ませました。今年度中に 3 件の予約をいただいています。多くの皆さんに審査に参加していただきますようお願いいたします。

名古屋駅前では松坂屋の跡地に J R 新駅ビルの工事が始まっています。そして今年、名古屋ビルディングと中央郵便局の建替えが始まります。3 年後の 2015 年末の完成です。その他、第二豊田ビル西館東館の建替えと納屋橋東ルネサンスタワー。ささしまライブ 24 では、3 棟 502 戸のロイヤルパークスささしまと中京テレビ新社屋。これらが 2016 年末から 2016 年度末の完成を目指して計画されています。名古屋駅前が変わろうとしています。

このところ職人の高齢化や東日本大震災の復興工事も相まって職人不足が始まり、建築コストが上がってきたようです。今後、中部地区の建築コストがどのように動いていくのか、興味津々といったところです。

2027 年には、リニア中央新幹線が時速 505 km で名古屋～東京間を 40 分で走ります。名古屋駅の地下 30～40 m に巾 60 m 広さ約 3.5ha の駅ができます。これに合わせてかどうか分かりませんが名鉄百貨店・近鉄百貨店・メルサ・レジャックの建替え計画もあります。高層ビルでの一体化の話も出ています。そして 2045 年、名古屋と大阪は 27 分でつながります。東京～大阪が 67 分になります。現在の運賃 13,850 円(現在閑散期値段)に対して 15,000 円程度(案)となるようです。

昨年暮れに政権が交代しました。そして巷には国費 10.3 兆円が流れるそうです。建築業界にどのような影響がでてくるのか・・・不況続きの建築業界に明かりが灯ればと願う次第です。

2013 年新春の明るいお話でした。

ホームページ委員会だより

ホームページ委員会

委員長 剛谷 将紀

東海北陸支部のホームページでは、より良いホームページを作る為「アナリティクス」という機能を用いてさまざまな分析をしています。

訪問数はもちろんのこと、アクセス頂いた地域やどれだけの時間このホームページに滞在したか、新規とリピーターの割合、どの検索ワードでホームページに来たか…など、さまざまな情報がわかるようになっています。

訪問数は 1 日平均 40 程度ですが、滞在時間が平均 1 分程度と短く、直ぐ帰ってしまう割合が 40.8% もあり、おそらく約半分の方がトップページの更新情報を確認して何も変わってなければすぐ帰ってしまう状態で、更新の少なさからくる結果だと反省しております。

また、Google などの検索エンジンを使ってこられる検索ワードで一番多い言葉は「積算とは」で、ここからでも積算に興味・関心をもって東海北陸支部のホームページを覗いてくれています。その他には「耐火塗料」「軽鉄下地」など積算に従事する方からも活用していただいているかと思われ、一番多く見に来ていただいているコンテンツも「データベース」で、データベース委員の方々が一生懸命作り上げたデータが役にたっているととても嬉しく思うと同時に、今後も専門的な情報もより多く掲載できればと思います。

またおもしろいことにケニアやシンガポールからも来訪者がありますが、当面外国語のページを作る予定はありません。

「アナリティクス」はもっといろいろな情報を吸い上げているにもかかわらず、まだまだ勉強不足でわずかな事しか活用できていませんが、このような情報を活用し、皆さんにもっと見て使っていただけるホームページを作り上げたいと思います。

平成 24 年度の講習会

平成 23 年度から、建築積算士ガイドブックと建築コスト管理士ガイドブックが誕生し、このテキストを中心に、講習会の有り方を最初から考えました。積算経験の多寡に合せた講習を企画し、フローチャートに表し分かりやすくしました。

基本的にはガイドブックを理解して頂き、より実践的な積算手法を身に付けて頂く為、添削講座を企画しました。そして、建築積算士試験の為の講習会、鉄骨講習会などを開催しました。

その中で、添削講座には延べ7人の参加が有り、中でも驚くべきことに不動産鑑定士の資格を持つ方の参加が2名有りました。建築積算の必要性を感じ、一から数量拾いを覚えたい事でした。

しかし、建築の経験は殆ど無く、さらにガイドブックによる建築積算の知識と基本的な拾い方の講習を受けていなかった事と、日常の仕事に追われて、中々時間が取れず、結局2人共中断してしまいました。将来的には建築分野以外の参加者も考えられる為、対応した講習会も企画したいと思います。

また、7月に行われた鉄骨講習会は多くの参加者が集まりました。最近鉄骨のウエイトが増えておりますが、殆どの建設会社はファブリケーターが算出した数量で必然的に多目の数量で契約されております。数量積算基準の重要性を抱いて頂いた結果で、下請け会社の数量まで数量積算基準であるべきではないでしょうか。

今年度には鉄骨ガイドブックと改修ガイドブックが刊行されます。それに沿った講習会を建築積算士ガイドブックと建築コスト管理士ガイドブックを含め、全国統一として講習会を開催する予定です。

学校教育の実態

講習・教育委員会

委員長 藤井 正王

積算協会のテキストによる、学校教育がスタートして4年目を向かえました。東海北陸支部では7校が認定校として実施されています。協会からの派遣講師は1校のみで、殆ど学校の先生が実施しています。

その中で特に名古屋市立工芸高校は3年生の選択科目として建築積算の授業が週2日(50分)一年を通して行われています。まずは建築積算テキストを勉強し、その後学校の先生が作成した図面から数量拾いを教えています。

昨日挨拶に伺った所、先生から悩みを話しかけられました。それは簡単な基礎の拾いでさえ、学生の半分以上がまったく理解できないようで、教え方がおかしいのではないかと、もっと理解できる教え方はないのか、またその事で学生も建築積算を嫌いになりかけていると、かなり深刻な状態でした。

その先生は私共の会社に週一度とはいえ、積算の研修に一年間通い、ある程度は理解しています。

その大きな原因は構造図を学校では教えていない事で、当然学生は見た事も書いた事もないですから理解できません。つまり積算で重要な事は平面的な図面をいかに立体的にイメージできるかです。私が助言したのは、まず設計・施工・その他の授業で常に建築積算を意識した講義を行う事と、いきなり拾い方を教えるのではなく、図面からケント紙等で立体の模型を作ることを進めました。

学校教育には色々な問題点はありますが、長い目を見て、将来の積算技術者の為に少しでも尽力していきたいと思います。

データベース委員会だより

データベース委員会

委員長 植田 隆明

新年あけましておめでとうございます。東北大震災の復興がままならぬなか師走の総選挙により自由民主党が大勝しました。景気対策、国土強靱化計画が我々建設業界にとって一条の光となり一步前進することを望む一年としたいものです。恒例の干支にまつわる言葉を探してみました。(良い言葉はあまりなくこの一年を暗示しているかのようです。)

- ・ 鬼が出るか蛇が出るか
- ・ 草を打って蛇を驚かす
- ・ 蛇の口裂け
- ・ 蛇が出そうで蚊も出ぬ
- ・ 蛇の道はヘビ
- ・ 蛇足
- ・ 生殺しの蛇に噛まれる
- ・ 蛇に足なし魚に耳なし
- ・ 蛇に睨まれた蛙
- ・ 蛇の足より人の足見よ
- ・ 藪蛇
- ・ 長蛇を逸する

※データベース委員会の活動状況をご報告いたします。

1. 過去のここが知りたい積算勉強会の質疑回答資料の全データがホームページに掲載中です。
2. 特養施設建築工事の将来解体時建設副産物のデータ化はサンプル数36件のご提供をいただき現在分析中です。近々に発表予定です。
3. 積算結果表のフォーマット『コストデータ表』はホームページに掲載中です。

データベース委員会では会員の皆様のご要望をいただき、使えるデータベース構築を進めてゆきたいと思っています。忌憚のないご意見ご要望をお願いいたします。

北陸部会だより

(有)高島建築積算事務所

高島 義昭

平成24年度北陸部会の活動より

- 7月21日(土) 金沢部会交流会
アパ金沢駅西彩匂にて 9名出席
- 10月17日(水) 建築積算わかりやすい実技勉強会
富山県民会館にて
- 10月20日(土) 建築積算わかりやすい実技勉強会
富山県民会館にて
- 10月28日(日) 建築積算士一次試験(11名)
富山県民会館
- 11月 3日(土) 建築積算士更新講習会
金沢市近江町交流プラザ
- 同日 PM5:30～ 会員交流会
近江町市の蔵にて 14名出席
- 12月11日(火) 建築積算わかりやすい実技勉強会
第2回 富山県民会館にて
- 12月15日(土) 建築積算わかりやすい実技勉強会
第2回富山県民会館にて
- 12月19日(水) 建築積算わかりやすい実技勉強会
小松にて
- 1月27日(日) 建築積算士二次試験
富山県情報センター(18名)
- 2月 2日(土) 北陸部会 新年会
アパ金沢駅西彩匂にて

北陸部会の活動、会員相互の交流に関して建築積算士の試験を中心にした積算の普及 啓蒙活動を行ったことにより、積算に対して多くの人に関心を持っていただき北陸地域でも確実に認知度が上がってきたように思います。

今後も地域に根付いた活動を確実にやっていき会員増強にもつながるよう努力していきたいと思っています。皆様のサポートをどうぞよろしくお願い致します。

『ここが知りたい積算勉強会』 第71回 現場見学会 — T・A・G 蟹江工場 —

講習・教育副委員会 委員長 山田 治

本見学会は、ここが知りたい積算勉強会「第69回最新鉄骨加工技術に迫る！」の内容について、実際の鉄骨を自分の目で確認する目的で開催されました。今回訪問したのは、(株)T・A・G蟹江工場で、工場は近鉄蟹江駅とJR蟹江駅のほぼ中間に位置しています。(株)T・A・Gは、1963年に創業された名古屋地区を代表するファブリケータ(鉄骨加工業者：通称ファブと呼ぶ)であり、年間約24,000tを生産しており、施工実績は名古屋地区だけでなく、東京地区の超高層建物の鉄骨も手がけている地元有数のファブリケータです。



第一工場内部



(株)T・A・G蟹江工場

見学会は、7月14日(土)10:00から行われ、今回8名が参加しました。初めに、製造部長の内川さんから、会社の実績、工場の規模、生産施設・能力などの説明を受け、その後、実際の鉄骨製作の現場を見るために工場に案内して頂きました。

蟹江工場は、第一工場と第二工場に分かれ、第一工場をメイン工場として、南北に製造ラインを設けており、形鋼・鋼板・柱大組の製作ラインが効率的に配置されていました。製作作業は、一次加工、組立・溶接と、作業効率が良くなるように製作機械が配置されていました。



形鋼の一次加工生産設備

使用する鋼材種類の確認は、ミルシートだけでなく、実際の鋼材にペイントを行って「見える化」を図り、鋼材種に誤りがないかを確認していました。



鋼材種類のペイントによる「見える化」

第二工場は、柱専用の製作工場であり、3台の全自動溶接専用ロボットが、夜間を含め24時間稼働しています。



柱大組立2アーク溶接ロボットシステム

工場内は、完成品のストックヤードを含め、全て屋根がかかっており、鉄骨品質への配慮が感じられました。工場内の揚重関連のクレーンは、30t天井走行クレーンを含む複数のクレーンが設置されており、作業効率の向上が図られていました。

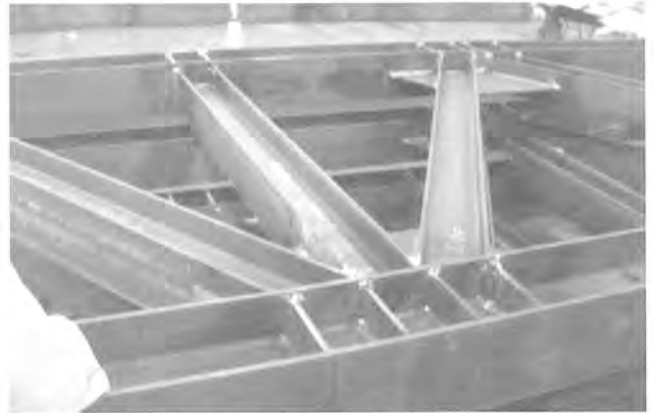


第二工場 天井走行クレーン (30 t)

次に、梁の開先加工を行う切削加工機と加工作業を実際に近くで見ることができました。切削加工は、全自動ではなく、作業員が開先形状を確認しながらの加工作業でした。



開先切削加工機と作業状況



全溶接ブレース架構の複雑な納まり

工場内には、検査を受ける前の鉄骨部材が置いてあり、その説明を受けました。特に、溶接ロボットでは製作ができない、手作業での溶接が必要な複雑な納まりの部材を見せて頂きました。鉄骨の溶接作業は、柱がボックス材、梁がH形鋼のスタンダードなラーメン構造のものは、全てをロボット溶接機で行うことができますが、ブレース構造については、人件費のかかる手溶接作業が主になるため、製作コスト、特に工場加工費が増加することが目で見て分かりました。工場見学から戻り、質疑・回答の後、見学会は無事終了となりました。

今回、2時間余りの短い見学会でしたが、見学会を通じ、実際の製作工場と鉄骨部材を見ることで、どのように鉄骨が製作され、工事現場に納入されるまでが、鉄骨加工の基本を含め、実物を目で見て理解ができました。また、見積・積算を行う上で、実際の鉄骨を見ることは、構造図面上だけの理解だけではなく、鉄骨構造の理解向上に直接繋がり、更に積算を行っていく上で、鉄骨だけでなく、溶接や製作についての知識を身に付ける必要があると改めて感じさせられました。

最後に、今回お忙しい中、工場見学を快く引き受けて頂いた(株)T・A・G様に改めてお礼申し上げます。

なお、第69回の質疑応答集は、当協会テーマページのHPに掲載しています。興味のある方は、是非ホームページへアクセスしてください。

記：竹中工務店 名古屋支店見積部 沖田 正夫

CPD制度改定とCPD単位取得について

建築コスト管理士の皆さんへ、改定内容の確認と年度による適用取得単位の違いの確認を

東海北陸支部 副支部長 佐野 洋治

平成 25 年 3 月更新の方へ

当協会のCPD制度は、5年間を経過し、資格者の生涯にわたる技術・知識の向上を支援することを基本として、建築コスト管理士登録更新に過度な負担がかからないように改定されています。

●制度改定の内容

1. 実務実績 (20 単位 / 年) および協会会誌 (建築と積算) 年間購読 (12 単位 / 年) の取得単位からの除外。

2. 年間取得必要単位数を、50 単位から、年間 16 単位への変更

3. 各項目の年間上限単位の変更

- | | | | |
|----------------------|-------|----|-------|
| 1). 全国大会 | 10 単位 | から | 4 単位 |
| 2). 講師・社会貢献 | 無制限 | から | 12 単位 |
| 3). 委員会活動 | 17 単位 | から | 8 単位 |
| 4). 本部・支部総会 | 5 単位 | から | 3 単位 |
| 5). 「建築と積算」CPD認定記事学習 | | | |

12 単位 から 10 単位

6). 他団体会誌購読 6 単位 から 4 単位
ただし、1 記事 1 単位とし年間 4 単位

7). 専門図書購読 20 単位 から 12 単位

8). 特別総合講習 (建築積算士更新講習)
60 単位 から 8 単位

4. 傷病・産休などやむをえない場合の緩和処置 (低減) 5 年間で 50 単位 から 20 単位

5. 建築積算士取得 20 年超、1 級建築士取得 25 年超の緩和処置

(低減) 5 年間で 50 単位 から 30 単位

6. 以上の改定は、平成 24 年 4 月 1 日より適用されます。

つまり、建築コスト管理士の皆さんは、

5 年間の必要単位数 =

(平成 23 年 3 月 31 日までの年数 × 50 単位)

+ (平成 24 年 4 月 1 日以降の年数 × 16 単位)

●Webシステムでの判定

登録する内容の実施日・期間により自動判定となります。

●平成 25 年 3 月更新の方 (建築コスト管理士)
注意点を記入しておきます。詳しい記入方法は、支部報 54 号 (2011 年 2 月発行) を参考にご覧ください

A. 単位は 5 年間で、旧制度 200 単位、
新制度 16 単位の 216 単位必要。

B. 研修年月日は下記の年度ごとの登録となります。

旧制度 年間 50 単位

2008 年 4 月 1 日 — 2009 年 3 月 31 日

2009 年 4 月 1 日 — 2010 年 3 月 31 日

2010 年 4 月 1 日 — 2011 年 3 月 31 日

2011 年 4 月 1 日 — 2012 年 3 月 31 日

新制度 年間 16 単位

2012 年 4 月 1 日 — 2013 年 3 月 31 日

C. 登録しやすい内容は下記のとおりです。

●旧制度・・・58 単位以上

①. 実務実績の登録 20 単位 / 年間

②. 自己申請

a. 協会会誌「建築と積算」購読 12 単位 / 年

b. 他団体会誌購読 6 単位 / 年

c. 専門図書購読 20 単位 / 年

③現場見学会 上限なし

●新制度

①. 自己申請・・・26 単位以上

a. 「建築と積算」認定記事 10 単位 / 年

b. 他団体会誌 4 記事迄 4 単位 / 年

c. 専門図書購読 6 冊以上 12 単位 / 年

③現場見学会 上限なし

●計画的な単位申請を！

高千穂 紀行 (3)

顧問 杉浦 譲治

神楽の舞いも終わり神楽殿を後にして駐車場に向かう参道のざわめきは冬の厳しい寒さに包まれています。

観光神楽とは言え、本物の奉仕者(ほしゃ)どん—神楽の舞手を地元ではこう呼ぶそうです。一の舞と太鼓の響き笛の音は充分高千穂神楽の雰囲気をも堪能させてくれました。



(写真は「御神体の舞」の一場面、尚観光神楽は無修正の動画ですがDVDに収録して有ります。ご希望があれば事務局までご連絡ください。ダビングして差し上げます。)

高千穂観光の目玉は夜神楽、高千穂峡、国見ヶ丘で見る雲海でしょう。明日は早朝に国見ヶ丘へ上る予定です。

宿に帰り明日の日の出の時間に合わせてタクシーを予約する、宿の亭主の「今夜は良く冷えるので明日は雲海が見えるかもしれません」の声を背中に床に付く。

明朝 迎いのタクシーに乗って国見ヶ丘に向かう、所要時間を尋ねると15分だという雲の上へ上るのに15分とは少しびっくりしました。

眼下に高千穂町を見下ろす場所は既に日の出を待つ人々で一杯です。

幸いにも霧はなく見上げる遠くの山頂は次の舞

台を予感させるように赤く染まり町は雲で覆われていました。観光ポスター等で見る雲海ほど豪快ではありませんがこれでも確率的には相当運のよい方だと運転手さんに言われました。



(国見ヶ丘で見える高千穂町)

振り返れば遠くに阿蘇の山々が仏像の寝姿のように見ることが出来、ご来光とともに神々しい景色にしばらくは身動きも出来ませんでした。宿に戻り朝食を済ませて今日は神々の町を散策予定です。

一日で見所をすべて回ろうという欲の深いスケジュールの始まりです。

何処の観光地でもそうですがタクシーの運転手さんは手頃な案内人です。帰りの時間に合わせて手際よく行き先を組み立ててくれます。

最後に高千穂峡でゆっくりした時間が欲しいことをのみ告げてあとはお任せです。

まず天の岩戸伝説で知られる「天磐戸神社」です。神代伝説の町には神様が一杯です。国見ヶ丘にはニニギノミコトがいましたが、ここにはタジカラオノミコトが大きな岩を持ち上げています。夜神楽の「戸取りの舞」の主役です。

この神社は拝殿のみで本殿がありません、本殿は溪流に面した対岸の洞窟です。といっても木々が深く何も見えません。

この溪流沿いに10分ぐらい歩くと「天安河原(アマノヤスガワラ)」があります。

(つづく)

資格者地位向上のために（会員交流会）

会員委員会 委員長 佐野 洋治

東海北陸支部の名古屋・北陸・静岡3地区に分けての会員交流会を、本年も少しでも会員以外の集まりやすい建築積算士更新講習会の終了後に、それぞれの会場の近くで開催しました。

社会は、新築工事で多くの建築物を建て、バブルの時代は、解体・新築を繰り返してきましたが、その後の20年で緩やかに変化し、今や、既存建築物の再生・寿命延長・価値向上を大きくとらえることとなり、新築の場合も作れば終わりの時代から、建物の生涯設計を考慮した計画となっています。

特に再生可能エネルギーへの早急な切り替わりを求めている社会にとって、建築の計画そのものも、省エネルギー・エネルギーの生成（発電）ができるものへの対応へと向かっています。

積算協会を取り巻く環境は、まず会員の構成が人口の多い団塊の世代以上が卒業を迎え、世代人口の少ない青年層にシフトし始めています。

それにより、会勢を高めるために、今後も会員交流会（現場・工場見学会、勉強会、講習会、研修会、交流会）の実施により協会活動の内容を理解して頂き、一方では、認定事業（建築積算士、建築コスト管理士、建築積算士補）の各資格者の社会的地位向上・知名度向上・取得者拡大を図らなければなりません。

まず会員の皆様ができる資格者活用としては、皆様の廻りで、積算・コストに関わる作業をした場合、してもらった場合に、作業品質保証のための資格者の登録No・氏名の表示活動・確認活動を実施して頂き、各資格者の必要性を高めてもらいたい。

また、納入積算書・予算書等の確認は、資格者との対応を要求して頂き、品質向上を図るとともに、資格者の優位性を高めていただきたい。

まず会員ができる資格者地位向上のお手伝いをお願いします。

名古屋会場

平成24年11月17日（土）

17時30分より19時00分まで 嘉文栄本店

参加者 33名

（正会員21名、積算士10名賛助会員2名）

